

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2014.11
No.112



健康な未来のために 2014-15 日本
2014年度
複十字シール図案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

資金寄附者感謝状贈呈式並びにお茶会

平成26年5月23日リーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区)において、結核予防事業資金として結核予防会に多額のご寄附をいただいた個人や団体の方々に、秋篠宮妃殿下より感謝状が授与されました。また、記念写真とお茶会が行われ、資金寄附者の方々となごやかなひとときを過ごされました。



結核研究所国際研修生との懇談会

平成26年7月17日秋篠宮邸にて、平成26年度「MDGs達成及び結核征圧に向けた結核対策強化コース」13カ国19名の研修生と御懇談が開かれ、最後に研修生よりお招きいただいたことへのお礼の挨拶が述べられました。



埼玉県地域婦人会連合会結核予防会
会長 柿沼 トミ子



汗のしたたる猛暑の8月19日、私達、埼玉県地域婦人会連合会結核予防会は、総勢11人で埼玉県上田清司知事を訪問いたしました。

当結核予防会は、昭和61年1月18日に結成以来、時代に合わせ結核制圧運動を展開してまいりました。複十字シール募金活動、結核予防関係婦人団体中央講習会への参加、自主開催等、積極的な活動を実施しております。

駅頭で活動していても感ずることは、人々の結核に対する関心の薄さです。

現在、埼玉県の人口は720万人、結核新規患者は年間千人も出現しております。

知事には、私達の活動内容を報告させて頂き、行政として結核に対する積極的な制圧への取り組みをお願いいたしました。

知事は、日本の結核状況が先進国として現在にあっても良くない状況に驚かれ、埼玉県としても制圧に向けて、しっかりと頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。



福井県健康を守る女性の会
会長 宇野 千代子



今年も全国一斉に複十字シール運動が始まります。

そこで9月24日結核予防週間の始まりに合わせて、朝7時30分駅前にて健康を守る女性の会会員7名、管理協会の協力でキャンペーン実施しました。多くの乗降下車の方にチラシ配り、揃いのTシャツにたすきを掛け、熱心に走り廻る姿は頼もしく力強く感じました。



引き続き福井県庁に出向き、知事表敬訪問。今年は、副知事様と支部長、私達7名です。はじめに支部長から表敬訪問の趣旨説明、複十字シールについて紹介、私も時間の配慮を頂いたお礼、今朝の駅前での活動等話し協力をお願いし、会員ひとり一人お話しする事ができました。熱心に聴いて下さり、励ましの言葉も頂き記念撮影をして解散。少子高齢化、人口減少の進む今日、健康で明るい社会、家庭生活を行なう為に1人でも多くの方々に理解と協力を求め、行政や結核予防会と連携をとりながら複十字シール運動を強化していきたいと思っております。



複十字シールで結核予防を啓発
県地婦連が知事訪問
結核予防を啓発する「複十字シール」を活用した募金運動を行っている県地婦連の柿沼トミ子会長ら11人が19日、上田清司知事を訪問し、活動について報告した。

柿沼会長は「日本でも約1万人、埼玉県約千人の新規結核患者がいる」と現状を報告し、「県として結核予防力を入れている」と訴え、「認識していただくには、啓発運動を広めていきたい」と話した。

募金は12月31日まで。集まった寄付金は結核予防の教育に充てられる。(宇野みり)



一般社団法人 大阪エイフボランティアネットワーク
会長 上ノ山 幸子



平成26年度複十字シール運動の開始にあたり、去る7月31日大阪府知事(植田副知事対応)に表敬訪問いたしました。婦人会からは私と副会長3名が、大阪府結核予防会からは増田理事長、吉田常務理事が訪問しました。冒頭、副知事から「長年にわたるボランティア活動に敬意を表する。」と、労いのお言葉がありました。増田理事長から複十字シール運動の趣旨目的と、昨年度の募金実績(大阪府が占める割合等)や、募金の用途等を詳細に説明されました。その後の懇談では、大阪府の結核罹患率が、長年にわたり全国ワーストワンであるため、結核健診の受診率を向上させることが最も重要である等が話し合われ、私たちは今後なお一層、啓発活動を推進する決意をお伝えいたしました。副知事は、終始にこやかにご対応いただき、複十字シールについては、府庁の職員にも呼びかけ募金に協力したい旨、心強いお言葉をいただきました。このたびの知事表敬は、単に



複十字シール運動のみならず、私たちの日常活動を理解していただく良い機会となり、有意義な訪問でした。

広島県地域女性団体連絡協議会
会長 仲島 武子



今年も結核制圧の複十字シール運動について、広島県民に予防思想の啓発や募金活動のための協力を、平成26年8月5日(火)10時に広島県高垣副知事をお願いをいたしました。

私たち県と市の女性団体と、県の地域保健医療推進機構の7人でお会いし、私たちは声明文により複十字シール運動の概略、結核の現状「結核は対策を緩めると増加する可能性がある」と強調し、複十字小型シール、大型シール、封筒組合せ及びリーフレットを贈呈しま



した。高垣副知事は「非常に重要な運動。支援を惜しまない」と応じられました。

広島県内で結核と診断された患者は、平成24年で411人、人口10万人当たりの罹患率は14.4人と、全国平均16.7人に下回っております。

私たちの会は、昭和27年から運動を始め、今年63回目を迎え、中心となつての活動を一層続け、結核の征圧に向けて努力したいと思います。

大分県結核予防婦人会
会長 後藤ミツノ



8月7日、結核予防婦人会役員と結核予防会大分県支部の役員6名で県知事表敬訪問を実施しました。知事さんに8月1日から始まる複十字シール運動の趣旨を説明し、この運動が今年で63年目を迎え厚生労働大臣、各県知事さんに結核予防婦人会が中心となつてお願いに伺っている事を伝え、県を始め関係団体のご協力をお願いしました。知事さんもこの複十字シール運動の重要性を認識していただき県としても協力を惜しみませんと、私たちの運動にエールを送ってくださいました。私たちも街頭やイベント等で、結核が決して過去の病気でないこと、結核の早期発見が如何に重要であるか皆さんに伝え、募金のお願いをしていきたいと思

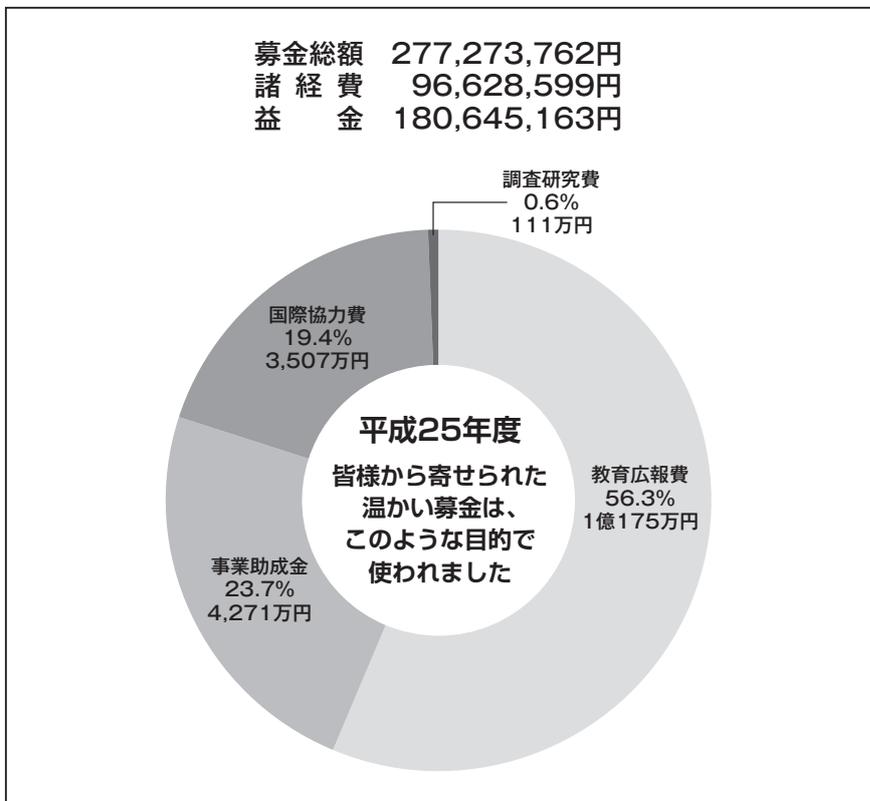


平成25年度複十字シール募金 結果報告

昨年度のシール運動について

平成25年度、複十字シール運動の募金総額は、277,273,762円となりました。全国の婦人会で約7,000万円(25.3%)を集めていただき、本当に有り難う御座いました。

今、シール運動を継続して、結核のない世界を作るためには二つやらなければいけないことがあります。まず、募金を集めることです。運動を継続していくためには事業資金が不可欠です。日本の結核の現状や国際協力の大切さを説明し、理解してもらえよう努力が必要です。次に、広報活動の重要性です。これは、主に本部がやることですが、以前のようなAC公共広告機構を使っただけの広報やインターネット等を使った広域な広報活動の強化です。特に、若い世代を対象に効果的、且つ継続的な広報していく必要があります。何故なら、シール運動の寄附者の多くが結核の怖さを知っているシニア世代だからです。若い世代に、結核についての正しい知識を普及啓発していく必要があります。結核の罹患率も、10万対で16.1となり、低まん延国(10万対で



10以下)まであと少しです。ちょっと気が早いですが、2020年の東京オリンピックまでに低まん延国の仲間入りが当面の目標でしょうか。そのためには、婦人会の力が不可欠です。力を合わせて頑張りましょう。

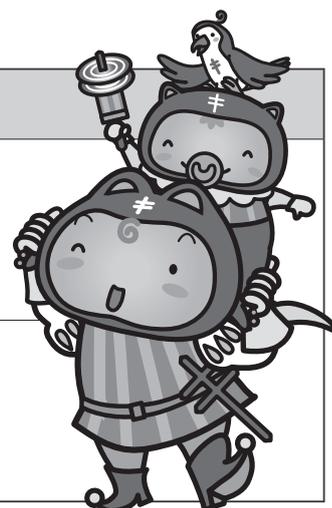
公益財団法人結核予防会
事業部普及広報課



イラスト・カット募集

平成27年3月号(健康の輪No.113)に掲載するイラスト・カットを募集致します。
花・動物・その他、何でも結構です。
締切は、平成27年1月9日(当会必着)です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
TEL:03-3292-9288



ザンビアの結核予防活動 — 複十字シール募金に支えられて —

公益財団法人結核予防会 総裁 秋篠宮紀子

今年の6月末から7月初めにかけて、アフリカのザンビアとタンザニアを公式に訪問しました。その折に、ザンビアの結核予防活動に尽力されている関係者にお会いすることができました。

サハラ砂漠以南のアフリカは、HIV（エイズウイルス）と結核の重複感染の患者が増加するという深刻な問題を抱え、様々な国や団体などの支援を受けながら対策を進めています。HIVに感染していると、結核に感染した場合に発病しやすく、病状も重くなり治療が難しくなります。HIVと結核の蔓延を食い止めるためには、患者の早期発見と早期治療が極めて重要です。

ザンビアでは、日本の北海道大学が協力して結核を含む人畜共通感染症の研究を進め、NGO「難民を

助ける会」が、同地のクリニックでHIV/エイズをはじめとする感染症の検査や治療をおこなっています。日本と現地の人々が協働して、感染症をはじめ様々な医療の分野で積極的に対策に携わっていることを非常に心強く思いました。

結核予防会は、2008年にザンビアの首都ルサカに事務所を設置して結核対策プロジェクトを開始し、市内3カ所のヘルス・センターで活動しています。今回は残念ながらヘルス・センターを訪問することはできませんでしたが、事務所で働く職員や結核研究所の国際研修プログラムの元受講生などにお会いして、日々の活動についてのお話を伺いました。ヘルス・センターでは、結核の早期発見と診断・治療の体制を強化するために、地域から選ば

れてDOTSの担い手となる結核サポーターの研修、医療職のレントゲン撮影・読影などの研修、DOTSの記録・報告の強化支援などが進められています。このプロジェクトでは、結核サポーターが患者への訪問と服薬支援をおこなう他に、地域や学校で結核とHIV/エイズについての啓発活動をおこない、受診や検査を人々に勧めていると伺いました。

このようなザンビアでの結核予防会の活動費の一部は、複十字シール募金によって支えられています。婦人会の皆さまの日頃からのご協力を心より感謝いたしますと共に、結核で苦しむ人々、厳しい生活を送る人がまだ多くいることをこれからもお心に留めていただければと思います。



バオバブの木



ヴィクトリアの滝

会長就任ご挨拶

(NPO)岩手県地域婦人団体協議会 会長 瀬川 愛子



この度、会長をおおせつかり責任の重さを痛感しております。就任早々、アジア、アフリカ、中東等で結核対策に従事する医師十九名の方々が来県し、複十字シール運動についてスピーチする機会がございました。熱心に聴いてもらえてほっといたしました。

さて、東日本大震災のおりには、全国の皆様から温かいご支援をいただき、どんなに大きなささえ、生きる力になったかはかりしれません。それだけに広島市の災害、皆様の心痛如何ばかりかとお察しすると共に、心からお見舞い申し上げます。

岩手県でも三年八カ月過ぎた今も、行方知れずの会員、仮設住宅で過ごしている仲間がたくさんいる状況です。そんな被災地の人々の心に寄り添いながら、複十字シール運動も含め一步一步緻密に活動の輪を広げていこうと思っています。よろしくお願いいたします。

宮婦連健康を守る母の会 会長 大友 富子



4月の総会に於いて会長に就任し、重責を担うことになり身の引き締まる思いです。

全国結核予防婦人団体連絡協議会は、結核に関する知識の普及啓発や複十字シール運動を通して、世界中に「結核の輪」が広がるように活動することは、大変

素晴らしい団体と思っております。

その中で私たち「宮婦連健康を守る母の会」は研修会への参加者や複十字シール募金活動、街頭キャンペーン等を通し、地域社会への啓発運動を推進し、一人ひとりが健康で明るく生活できるよう、結核予防運動を続けております。

また、結核予防関係婦人団体中央講習会には、毎年2名が参加し情報を共有させていただいております。今後も東北地区結核予防婦人団体幹部研修会等、積極的に参加し結核予防活動に励んでいきたいと思っております。

山形県結核成人病予防婦人団体連絡協議会 会長 五十嵐 雪子



この度、丹スワ子前会長の後を引き継ぎ、会長という重責を務めることになりました。

結核の根絶を目指して「家族の健康は主婦の手で」を合言葉にこれまで結核予防、複十字シール運動等の啓発活動を推進してきた山婦協の更なる向上を目指して微力ながら頑張っております。

結核は過去の病気と思われ理解が低下しつつありますが、現在も一日に58人の新しい患者が発生し、6人が命を落としている我が国の重大な感染症であるということを一人でも多くの皆さんに伝えて、結核に対する意識を高めていただくことが何よりも大切だと思っております。

家庭、地域の皆様が健康で明るく過ごせるように今後も関係団体との連携を深め、ネットワークを活用しながら結核制圧の輪を広めてい

きたいと思っておりますので、ご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

愛知県地域婦人団体連絡協議会 会長 西山 妙子



平成26年度4月より、愛知県地域婦人団体連絡協議会会長に就任いたしました。不安と

とまどいの日々ですが、行政、先輩、会員等多くの皆様の温かいご支援をいただき、活動に取り組んでおります。

複十字シール運動が始まる8月には、県知事表敬訪問を行い、県地婦連が長年続けている支援活動の報告をいたしました。結核は激減したと思っておりましたが、まだ多くの方が発病しておられます。県内の高校でも感染し、大変驚いているところです。私達が結核予防に関する啓発、募金活動に取り組み、地域の方々の理解、協力を得ることにより、結核の早期発見や、罹患率の高い高齢者への対策等に少しでもお役に立つことができればと思います。

地域の皆さんが、いつでも顔を合わせ気楽な会話がはずむ元気で長生きの輪、そんな絆の輪を提供しつづけていきたいと思っております。

京都市結核予防婦人会 会長 佐伯 久子



平成26年4月1日、西脇悦子前会長の後任として、京都市結核予防婦人会会長という重責を担う事となりました。

た。未熟ではございますが、精一杯頑張りたいと思っています。私たち、京都市地域女性連合会は社会教育関係団体として、男女共同参画社会の実現と温もりのある地域づくりを活動目標に地域での地道な学習活動を通して、さまざまな分野での地域活動に取り組んでいます。保健衛生の取り組みとして「複十字シール運動」は、結核や肺がんのない社会を目指した国際的な予防活動として頑張っています。私たちは、昭和44年の「第1回結核予防婦人のつどい」の開催以来、街頭啓発や各種研修会への参加、活動に積極的に取り組んでいます。

今年度も9月12日「結核の予防とがんを考えるつどい」が開催され、多数の参加を呼びかけました。9月26日には京都駅広場とその周辺

に於いて、複十字シール街頭啓発キャンペーンを実施。結核予防活動をより広く、深く知って頂くために、結核予防関係婦人団体中央講習会などを通して理解を深めて携わって参りたいと存じます。

長崎県地域婦人団体連絡協議会 会長 西山 智子



今年5月30日より、会長職をお受けすることになりました。

皆さまの協力を得ながら、健康な心で、熱意をもって、活動をしていきたいと考えております。よろしくお祈りいたします。

「結核予防は主婦の手で」という

標語がありますように、健康を守るには主婦の力が必要だと思って運動を展開しております。予防の第一歩は、結核についてのしっかりした知識をもつことが必要と考えます。

また、私達が健康寿命を全うするために、予防医学の必要性も感じており、各地区で保健師の先生とご一緒に研修をかさねております。

複十字シールに関しましては、長崎県健康事業団とご一緒に、県知事の表敬訪問や街頭キャンペーン、イベント等シール募金活動をしており長崎県の募金の半分以上は地婦連がまかなっております。

長崎県の結核の罹患率は全国4位と高いので、これからも県民一体となって頑張ってもらいたいと思っています。

結核予防会理事長就任のご挨拶

公益財団法人結核予防会 理事長 工藤 翔二



このたび故長田功前理事長の跡を継いで、公益財団法人結核予防会理事長に就任いたしました。皆さまのご協力を得て重責を果たしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

結核予防会は昭和14年(1939年)設立以来、日本の結核対策を推進する中核的な役割を担ってきましたが、本年、創立75周年を迎えました。この間に、日本は官民一体となった努力によって、新規に発生する結核患者数は第二次大戦後の高まん延時代の30分の一以下に減らすことができました。

婦人会の先がけともいべき長野市結核予防婦人委員会が結成された翌年、昭和26年(1951年)には59万人の患者さんが新規に発病し、罹患率は人口10対698.4と記録されています。そして、全国結核予防婦人団体連絡協議会(結核予防婦人会)が発足した昭和50年(1975年)には、10万8千人が発病、罹患率は96.6になりました。そして、直近の2013年には約2万人、罹患率は10万対16.1まで低下しています。この間、結核予防婦人会の皆様が果たされた、結核予防の普及啓発・健診の受診向上への貢献は高く評価されてきました。

現在、日本の結核は中まん延期といわれますが、これから低まん延期に向かおうとしている今、「結核に関する特定感染症予防指針」(2011年)のもとに、新たな対応が

求められています。一方、世界では毎年860万人が新たに結核を発病し、130万人が死亡しています。結核を激減させた日本の結核対策技術と、約40年振りに新規抗結核薬を生み出した日本の科学技術を、地球規模の結核対策に活かさなければなりません。

昨年開始された「健康日本21(第2次)」ではCOPDが、がん、心臓疾患、糖尿病に次いで第4の生活習慣病に指定されました。予防会は、日本と世界の結核を制圧する課題とともに、肺の健康を守り生活習慣病を予防する、幅広い健康づくりに向かって努力して参ります。結核予防婦人会の皆様には、複十字シール運動をはじめ予防会活動に、引き続きお力をお貸しただけですよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

5月31日は世界禁煙デー

フィギュアスケーターの安藤美姫さんが禁煙大使に任命されました！

第27回世界禁煙デーは5月31日(土)東京ミットタウン1階キャノピースクエア(東京都港区)にて「オールジャパンで、たばこの煙のない社会を」をテーマに禁煙及び受動喫煙防止の普及啓発を行う記念イベントが開催されました。

この日、今年度の「禁煙大使」に任命されたフィギュアスケーターの安藤美姫さんが青いドレス姿で登場し、赤石清美厚生労働大臣政務官から任命証とたすきを授与されました。

トークショーでは「たばこの煙によって今まで健康だったお子さんに突然死症候群というものが増えてしまうっていうことにすごくびっくりしました。子どもの場合は抵抗力が大人よりも低いので、他にも喘息だったり肺炎だったり気管支炎だったり中耳炎にもつながったり、事故や病気にかかる子どものことを考えると、やはりご両親も喫煙されている方も気をつけてほしい。急にやめるのは難しいと思うので、心がけるように、少しずつ禁煙はしていったらいいな」と笑顔で呼びかけました。

私達、結核予防婦人会も「たばこのない日(世界)」を目指し、「受動喫煙防止」など、たばこによる健康への影響について考え大切な人の命を守るために呼びかけていきたいと思います！



大人気！ シールぼうやのぬいぐるみ

複十字シール運動イメージキャラクターであるシールぼうやのぬいぐるみを以前作成したところ、大人気のため在庫がなくなってしまいました。

たくさんの方から作成してほしい、とご要望がありましたので、今年は可愛らしさをさらにアップして再び作成しました。複十字シール運動キャンペーンや結核予防週間等での宣伝にどうぞご活用ください。1体1,500円の募金でお分けします。



シールぼうや

【お問い合わせ】 公益財団法人結核予防会 普及広報課 TEL 03-3292-9287

婦人会の手で 複十字チャリティーサイクルを 日本全国へ

複十字チャリティーサイクル運動は、不要になった本・DVD・CD・ゲームソフト等を公益財団法人結核予防会に寄贈を受け、これを回収して買取業者(ブックオフオンライン株式会社)で換金を行い、複十字シール運動募金に寄附することを目的とします。不要になった本・DVD・CD・ゲームソフト等を約30点ダンボール箱に入れて梱包し、結核予防会普及広報課へFAX(チラシ兼申込書)または、電話(フリーダイヤル)0120-416864で申込みいただければOKです。

結核のない世界の実現のためには、皆様の温かい支援が是非とも必要です。複十字チャリティーサイクル運動にご協力お願いいたします。

※ラモス氏が載っていて好評のチラシを無料で配布しております。(送料のみご負担願います)
お申込は、公益財団法人結核予防会 普及広報課まで

チャリティーの輪を日本全国へ広げよう！ 複十字チャリティーサイクル運動

複十字チャリティーサイクル運動って？

複十字チャリティーサイクル運動は、不要になった本・DVD・CD・ゲームソフト等をご寄付いただくことで、複十字シール募金ができます。

この運動を通じて、現在、結核予防会が実施している南東アジアのインドネシア・ミャンマー・カンボジア・アフリカのザンビアにおける結核対策の援助をはじめとする国際協力活動の資金調達を目的とするとともに、災害を受けた国々への結核対策の援助を行います。

また、日本の結核は世界の中ではかなり低減しており、結核の予防、普及、研究事業に資する資金調達を目的と致します。

※、途上国では、結核治療に最も大切な最初の2ヶ月の薬代が千円で、治療までの6ヶ月が2千円で済みますので、その資金援助に複十字チャリティーサイクル運動で寄付された募金を使用させていただきます。

STEP1 お申し込み 結核予防会(資金)にフリーダイヤル0120-416864またはFAX03-3292-9287で申し込みください。

STEP2 集荷 結核予防会(資金)にフリーダイヤル0120-416864またはFAX03-3292-9287で申し込みください。

STEP3 募金 結核予防会(資金)にフリーダイヤル0120-416864またはFAX03-3292-9287で申し込みください。

ラモス留信

申込書 FAX 03-3292-9208 お申し込み日 月 日

氏名 _____ 電話番号 _____

住所 〒 _____

集荷希望日時 月 日 午前中 午後 夕方以降

所属 _____

主催 公益財団法人結核予防会資金課 千代田区三崎町1-3-12 ☎0120-416864